

サンルダム問題

計画ダム名： サンルダム
河川名： 天塩川水系サンル川
所在地： 北海道下川町
事業者名： 北海道開発局、
総貯水容量： 57,200,000m³
ダムの目的： 多目的ダム(洪水調節、流水の正常な昨日、水道用水、発電)
事業費： 530億円
水没予定戸数： 12



報告者：北海道自然保護協会 佐々木克之

連絡先 電話：011-251-5465、

メールアドレス：info@nc-hokkaido.or.jp

1

サンルダム問題に対する 私たちの主張

- 天塩川は長さ256km、流域面積5590km²、サンル川は天塩川の支流名寄川の支流。サンル川の流域面積は182km²で、天塩川のその3.2%、名寄川のその26%に過ぎない。従って、**サンルダムは天塩川の治水にはほとんど効果がなく、名寄川の治水にもそれほど多くを期待できない。**
- 名寄川の堤防はかなり完成していて、一部無堤地区と一部流下能力不足の場所があるだけで、それらを補強すれば、名寄川の水害を防ぐことができる。
- 水道水として、下川町1.5L/秒、名寄市17.5L/秒という極めて少量を掲げているが、これらは現在の名寄川からの取水で十分可能。
- 発電1000KWを予定しているが、サンル川の流量からすると無理ではないのか。発電による無水期間の懸念。
- サンル川は日本でも有数のサクラマスが遡上する(年間3、000尾程度)川で、**ヤマメの宝庫**、これの保全が重要な課題となった(流域委員会)。開発局は魚道などで遡上と降下対策を実施して必ず保全すると言っているが、その保証はない。

2

経過と問題点

流域委員会・・・2003年5月に流域委員会設置、2006年12月の第20回委員会で終了、開発局長に提出された意見では、治水で目標流量が高すぎるという少数意見が併記、サクラマス保全是事前に方法の検討などをして保全していくことが書き込まれた。
開発局・流域委員会との話し合いは拒否された・・・私たちは、流域委員会ごとに質問と意見を提出し、冊子をまとめて、流域委員会での発言を求めたが拒否された。開発局は質問に答えるとして「考え方」を随時発表するも、私たちの疑問に答えてこなかった。また、ダム推進団体と会っても、私たちとは会わないと回答。住民説明会でも十分な説明が得られなかったので、冊子「サンルダムへの疑問」を4,000部発行、3,000部以上普及。
開発局などへ要望書提出・・・開発局は整備計画案提出時に疑問に答えると回答したが、8月の案提出時にやはり答えていなかった。10月1日付けで開発局、北海道知事、国交省北海道局長へ要望書を提出した。
北海道知事計画にゴーサイン・・・10/10付け新聞によれば、高橋道知事は計画に同意、五年以内に本体工事着工という情報が流れた。

問題点・・・私たちに会わず、疑問にも答えず、整備計画案を計画にすることは、河川法の考え方に違反、これをどのように解決するのか検討中、国交省にも考え方を質したい。

3

天塩川水系河川整備計画案の問題点

1. 治水

- 戦後最大の洪水に備えるということで設定された目標流量(1500m³/s)が、サンルダムに関係する名寄川で実績最大ピーク流量(昭和48.8:1115m³/s)より30%以上高く設定、戦後最大洪水時(昭和56.8)の602m³/s)の約2.5倍で、高すぎる値である。
- 2006年10月の名寄川隆々は開発局速報で900m³/sで、戦後最大に近い。しかし、サンルダム建設下流の名寄川や天塩川との合流部下流で外水被害はなし、内水氾濫が主な被害でした。戦後最大流量(実績)が流れても安全と言える。
- 名寄川では高すぎる目標流量が流れても、数箇所の堤防強化と一箇所の河道掘削で名寄川はさらに安全になる。

2. 利水

- 正常流量が高すぎる根拠が示されていない、2)発電によって無水期間が生じる可能性が大きい、3)必要としている水道水量は現在のサンル川や名寄川からの取水で十分可能、また、沢水や地下水を少量確保でも足りる。

3. 環境

- 計画案では「サクラマス生息環境への影響を最小限とする」と述べているが、流域委員会意見は「サクラマスの遡上、降下対策にあたっては専門家の意見を聴くとともに、現状の機能を保全しながら事前の段階から必要に応じて試験を行い、その生息環境の推移を継続的にモニタリングするなどその効果を確認したうえで必要な対策を講ずることができる体制を整備する。」とする流域委員会意見を無視している。
順応的管理をすると言いつつ、サクラマス保全に関する管理のしかたについて具体的に触れていない、など問題山積。

4